

郷土館発

屋上から

奥三河の自然を支える山塊、その最高峰茶臼山は、愛知県の最高峰でもあり、一四一五mの標高を誇る。郷土館の屋上からは、この茶臼山をはじめ一〇〇〇mを超える山々だけでも、萩太郎山、碁盤石山、古町高山、仏庫裡、鷹ノ巣山が北から西へ一望できる。

残念ながら南の方向には樹木が生い茂り、山々の連なりを一度に見渡すことはできない。それでも木々の間には、鞍掛山から岩古谷山に連なる稜線が見取れる。中でも岩古谷山は県指定の名勝であり、郷土館からほぼ真東に位置する岩塊は、戦国期の要害としての威容を今に残している。

下の写真は、屋上から北の方向を中心に撮ったパノラマである。肉眼で見ればもっと量感があり圧倒される雄大な景色である。

奥三河総合センターの右上にそびえるのが鹿島山、標高は九一二m、郷土館の北東に当たります。

そのなだらかな山裾をたどった先に、富士山のように整った形をもつ知生山が見える。この峠越えは伊那街道の難所の一つ

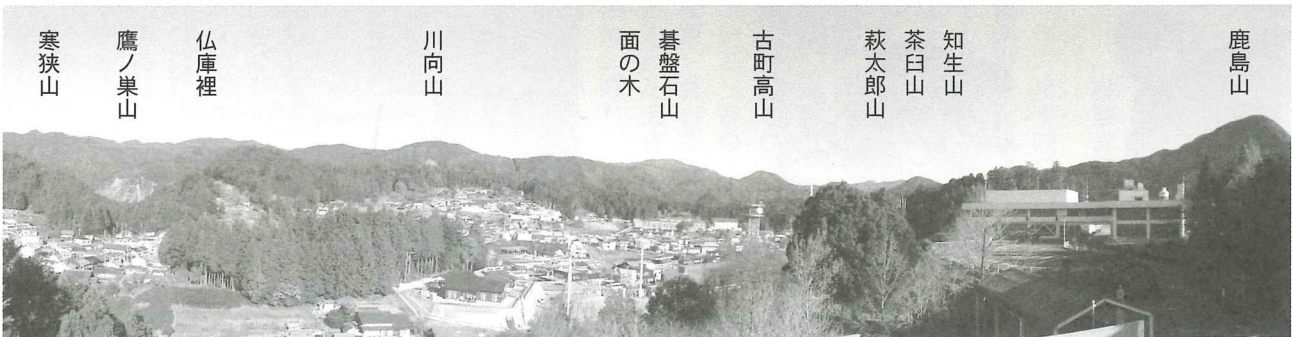
であった。それに並んで、実は一〇kmも彼方になるのだが、茶臼山、萩太郎山と続いている。N T Tのアンテナの上に見える

るのは、古町高山で、頂上が少し平らになっているが、どの方向からみても丸い山容が特徴の山である。

設楽中学校を懐に抱え込むようにそびえているのが、碁盤石山。天狗が腹立ち紛れにひっくり返したという、碁盤のような岩があることからその名がついたといわれる。頂上近くにある磐座は平安から鎌倉時代に修験者が祀りを行った場所で、町の文化財に指定されている。前記の知生山から古町高山、碁盤石山へと続く稜線は、旧津具村と設楽町の境であった。碁盤石山の左奥には面の木峠があり、風力発電の風車がよく見える。

目をさらに左に転じると、福田寺の彼方に仏庫裡が見える。別名小鷹山といい、小鷹神社の奥宮がその中腹にある神聖な山である。仏庫裡の左、少しくぼんだ山稜の遠くに見えるのが、段戸の最高峰一一五二mの鷹ノ巣山、稜線から富士山のように美しく突き出ているのが寒狭山である。

郷土館にお越しの方は、屋上に上がり、この美しい山々の眺めを堪能していただきたい。



(奥三河郷土館

館長 平松 博久